

2024年の世界のリンゴ輸出量

[FreshPlaza](#) 2025年3月26日

アイコンサルティング社の2025年国際リンゴ市場年鑑によると、2024年の世界の生鮮リンゴの輸出量は0.2%増の750万トンであった。この増加は中国と米国からの出荷によるもので、イタリアとポーランドは天候の問題が生産に影響したことにより減少した。業界全体の出荷額は、前年比8.1%増の76億9千万ドルに達した。

北半球の輸出量は合計600万トンで、全体の80%を占めた。中国は、生産量の増加と、輸出可能な果実が入手しやすくなったことで、主要供給国としての地位を確固たるものにした。

南半球の輸出量は9.1%増加し、150万トンに達した。チリ、南アフリカ、ニュージーランドがこの地域をリードし、品種の交代が進んでいる。チリの輸出量は18.8%増加し、南半球全体の37%にあたる55万6千トンで、南半球の輸出をリードした。主な輸出先は中南米諸国で、出荷量の59%を占め、輸出単価は1.05ドル/kgであった。ブラジルがチリ産リンゴの最大の輸入国であり、8年ぶりにコロンビアを上回った。

ヨーロッパ市場では、ガラ系品種の価格は前シーズンよりも低く、域内産の果実が引き続き上回った。グラニースミスは高値で始まったが、第21週(5月下旬)の後は下落した。ふじ系品種は2023年よりも業績が落ち込んだが、チリ産は終盤に高値を記録した。クリップスピンク(商標ピンクレディー)系は、安値でスタートし、シーズン終盤に跳ね上がった。

米国では、伝統的に高価格帯にあったハニークリスプが、国内産の増加と輸入により価格が下落した。また、有機リンゴの価格は依然として慣行栽培品の価格を上回っており、ハニークリスプの価格は3ポンド当たり10ドルを超えた。(1ポンド=約0.45kg)

アイコンサルティング社のレポート全文は[こちら](#)

出典: frutasdechile.cl

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)